

採択の考え方

- (1) 事業主体は、株式会社横浜岡田屋を代表企業とし、株式会社小此木、藤木企業株式会社、川本工業株式会社、株式会社T・Yホールディングス、株式会社横浜グランドインターコンチネンタルホテル、野村不動産株式会社、京浜港ワッチマン業協同組合の7社・1団体を構成企業とするグループとなります。代表企業の株式会社横浜岡田屋は、資力、信用、実績に関しても、事業主体として優れていると認められます。
- (2) 事業スキームは、提案企業のうち横浜岡田屋、小此木、藤木企業、川本工業、T・Yホールディングス、横浜グランドインターコンチネンタルホテル、野村不動産の7社で株式会社Yokohama Pier9を設立し、横浜市から土地を定期借地により借り受け、開発及び運営を行うものです。そのうちホテル部分については、T・Yホールディングスが横浜市から直接土地を定期借地により借り受け施設の開発および保有を行い、運営は横浜グランドインターコンチネンタルホテルと一体的に行う予定であり、事業の実現性等に関して、優れていると認められます。
- (3) 事業計画は、旅客施設であるCIQ施設と商業施設、ホテルを開発するもので『陸・海・空とマチ マチをつなぐ、港のハブ ヨコハマ ウミエキ』を開発コンセプトとしています。商業施設においては、「食」をテーマに横浜らしさを打ち出しファクトリーの併設など工夫がなされており、またホテルは旅客の前後泊に対応する高品質なホテルを目指すなど、意欲的な取り組みがみなとみらい地区の新たな誘客施設として魅力的な提案となっており、特に優れていると認められます。
- (4) 施設計画は、1階の9号岸壁側にCIQ施設を配置し、船舶の乗下船客の動線に配慮するとともに、運用面やその他の活用もふまえてパーテーションで空間構成できるように計画されています。動線に関しては、船からの物流動線を2系統確保し、歩行者の安全性確保のため舗装の色分けや標識設置など様々な配慮が見られる施設配置・動線計画となっているため、優れていると認められます。
- (5) 運営計画は、クルーズ船社から意見徴収を行い、計画を進めており、クルーズ船社との連携に関して、特に優れていると認められます。客船停泊時以外には、イベント等をはじめ多様な活用が可能としており、交通広場、ハンマーヘッドパークと合わせて幅広いイベントの開催等を想定した計画としています。災害時には、防災拠点として位置づけられている9号岸壁に加え8号岸壁からも緊急物資を受け入れる運営となっており、優れていると見られます。
- (6) その他、横浜の地元企業のコンソーシアムを中心とした提案であり、新たなクルーズ拠点の形成に関する魅力のあるコンテンツであるとともに、地元企業・地域が一体となって魅力ある街づくりや地域貢献を進めていく強い志が感じられる提案になっています。

本件提案は、公民連携による開発事業であり、客船の受入れ機能強化とともに、サービス・商業施設などと一体となって、新たなクルーズ・観光の拠点となることを期待しています。

CIQの機能を使いやすく充実させることで、旅客の利便性を確保し、前後泊にも対応するホテルや横浜ならではの商業施設の整備を通じ、寄港地横浜のブランド価値向上に寄与するとともに、周辺施設とも連携しながら新たな横浜の魅力をアピールできる施設として期待のもてるみなとみらい21地区にふさわしい魅力的な提案と認められますので、事業予定者とします。